いきものがかりの言語学１～音声的特徴

Linguistic Analysis of Ikimonogakari's songs 1：their phonetic features

山　田　敏　弘
YAMADA Toshihiro
lingua@gifu-u.ac.jp

１．はじめに

日本語で書かれた歌詞を対象とした言語学的分析は，伊藤雅光 (1997-2001)[1] による「ユーミンの言語学」を代表例として，各時代に散見される（棚田輝嘉・山内博之2012，平山千晴2009，野田春美1996など)。このような研究の中で，特定の歌手の歌詞を研究対象としたものとしては，伊藤 (1997-2001) のような，「ユーミンもどきの歌詞をコンピュータに作らせてしまおう」という独特な意図のものもある一方，平山 (2009) のように素朴に一組の歌い手の歌詞を対象に語彙を中心に歌詞を分析したものもある。このような特定の歌い手の歌詞の研究は，限定されたコーパスに対する小さな言語研究ではあるが，ある時代を代表する語彙をはじめとした言語的特徴を描き出すというメリットも有する。また，歌詞は，傾向は異なるものの，文字として表出されたひとつの文学作品として近年では特に中学校の国語教科書にも取り入れられはじめており[2]，その意味で歌詞の研究は特定の作家の作品を対象とした研究と同等の価値も持つと認められはじめていると考えられる。

本考察では，現在，もっとも若者に支持されているグループのひとつである「いきものがかり」の歌を対象に，音声，語彙，文法的特徴を描き出す。彼らの歌は，軽佻浮薄と揶揄されがちな現代J-Pop[3]の中でさまざまな伝統的言語特徴を持ち，彼らの歌詞を対象として分析することは意義を十分に持つ。また，産出された歌は貴重な音声データでもある。音声的特徴を描くことも価値あることであろう。

このような特性を認めた上で，今回はまず，このような「いきものがかり」の歌に関し，その音声的特徴について分析を試みる。手法としては，まずすべての歌詞をOCR（文字認識ソフト）によるデータベース化し，音声的特徴を歌詞に書き入れ分析する方法を採った。ただし，すべての演奏付き楽曲に対し，音声ソフト等を用いて分析することは困難であるため，基本的に聴覚的判断で音声的特徴を採取した。なお，この研究は，2012年度に全学共通教育で山田がおこなった「言語学入門」という授業で話したことが端緒となっている。授業中，学生からの発言によって気づいた点もあるが，この点については考察中で明記する（ただし，発言者名は挙げない)。

２．考察の前提の確認

「いきものがかり」は，1982年神奈川県中部の海老名市出身の男性２名（水野良樹・山下穂尊）と1984年神奈川県厚木市出身の女性１名（吉岡聖恵）からなる３人組ユニットである。３人がそれぞれ

1 伊藤雅光(1996-97) にも，松任谷由実の歌詞研究が見られる。

2 ざっと見た限り，平成24年版では，三省堂中学国語教科書に，ゆず (北川悠仁)「にじ」，スガシカオ「Progress」，アンジェラ・アキ「手紙～背景　十五の君へ～」が見られる。また，平成18年版東京書籍中学国語教科書には，中島みゆき「永久欠番」が採用されていた。

3 「歌謡曲」,「ニューミュージック」等の名称もあるが，平成における「日本の大衆音楽 (歌詞付) の総称」(wikipedia「歌謡曲」より）として，J-Popという名称を用いておく。

独自に作詞・作曲をおこない，カバー曲も初期のシングル曲のカップリングとして何曲かあるがほぼオリジナルで楽曲を作成している。メジャーデビューした後，2012年12月までに発売された発表された「いきものがかり」のシングル・アルバムに収録された楽曲89曲（インストゥルメンタルおよびバージョン違いの作品を除く）のうち，他者のカバー曲は６曲あるが，他はすべて彼らのオリジナル作品であり，他の作詞者・作曲者から提供された楽曲は１曲もない。

作詞と作曲は，基本的に同一者によるものであり，水野が37曲，山下が39曲，吉岡が４曲制作している。共作となっているのは，わずかに３曲で，うち２曲が山下と吉岡の作詞，作曲は山下となっており，残りの１曲は，水野と山下の作詞で，作曲は同じく山下となっている。作詞者による歌詞の傾向の差は大きいが，この違いは次稿以降で考慮に入れていくとして，本考察では措く。

歌唱は，女性ヴォーカルが基本で，吉岡が２曲を除くすべての楽曲の歌唱を単独で担当する。残りの２曲も，３人全員が参加するものである。本考察は，音声に関する考察として，この女性ヴォーカル吉岡の音声を中心に分析していく。

多くのJ-Popの歌い手がそうであるように，「いきものがかり」もまた，多くのドラマ・映画主題歌をはじめ，CMとのタイアップ曲を多く発表するなど，マスメディアとのコラボレーションがあまた見られる。中でも，NHKとは，2009年第76回NHK全国学校音楽コンクール課題曲として「YELL」を提供し，2010年NHK朝の連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」の主題歌「ありがとう」が毎朝画面から届けられ，2012年には，NHKロンドンオリンピック・パラリンピック放送テーマソング「風が吹いている」[4] が感動的場面を修飾する役割を担うなど，蜜月関係にあるといってもよい。人気の面では，秋元康プロデュースによるAKB48等，多くのグループシンガーのほうが上を行くかもしれない。また，歌唱力という点では，演歌歌手やオペラ歌手等，正統派の歌唱をもつ歌い手と異なる特徴を彼らはもつ。その中で，これほどまでにNHKによって認められている特性とは何か。そのひとつが音声にあると考え，本考察では，彼らの歌唱から，ガ行鼻濁音，格助詞「を」の円唇性，「行く（ていく）」の半母音挿入の観察を通じて，その歌唱の特徴を考察していく。

３．ガ行鼻濁音の使用・不使用

音声は，日常会話で使うものと歌唱において用いられるものと異なって当然である。通常は，共通語において非円唇で発音される母音の「ウ」も，歌唱においては円唇で発声されることを指導される。「オ」も同様である（ただし，日常の音声指導において，「ウ」や「オ」を円唇で発音することを強いることは間違いである）。

語中[5]のガ行音を鼻にかかった発音で発音するガ行鼻濁音も，伝統的な音声実現として歌唱では推奨というよりも必須の発音である。このガ行音は，「いきものがかり」の楽曲でどう実現されているだろうか。ここでは，まず，年代別に見るため，2012年12月までに発売された24枚のシングル第１トラックの楽曲ごとに，鼻濁音・非鼻濁音の別を見ていく[6]。なお，鼻濁音は，「カ゜」「キ゜」「ク゜」「ケ゜」「コ゜」のように，右肩に半濁点を付けて表す。なお，繰り返し歌われるフレーズ（リフレイン）部分についても，常に同じ音声で歌われているわけではないため，歌われれば回数として数えている。また，鼻濁音性の有無の判断は，筆者の聴覚印象によっておこなった。明瞭な鼻濁音ばかりではないため，一部には誤差を含む可能性もあるが，大きく傾向は掴めるであろう。

---

4 「風が吹いている」は，2012年の「紅白歌合戦」紅組の取りを飾った。

5 鼻濁音は，より正確に言えば，文節中に現れる。格助詞「が」は，「語」であるが，付属語として文節頭に来ないため鼻濁音として実現されうる。また，2009年発売のアルバム「ハジマリノウタ」に収録される「真昼の月」では，「言の葉の如く」の「ごとく」が「コ゜トク」と発音されているが，文法的に自立語であっても機能的に補助的に用いられる語の一部で，語頭に鼻濁音が現れうる。

6 データは，「いきものがかり」official web site (ikimonogakari.com/discography) より。

発表年月日	タイトル	ガ／ガ°	ギ／ギ°	グ／グ°	ゲ／ゲ°	ゴ／ゴ°
2006/03/15	「SAKURA」	9/1	1/0	1/0	1/0	0/0
2006/05/31	「HANABI」	4/1	1/0	1/0	0/0	0/0
2006/10/18	「コイスルオトメ」	6/1	1/0	0/0	1/0	0/0
2006/12/06	「流星ミラクル」	14/0	0/0	3/0	0/0	0/0
2007/02/14	「うるわしきひと／青春のとびら」	15/0	0/0	0/0	0/0	0/0
2007/08/08	「夏空グラフィティ／青春ライン」	3/0	0/0	1/0	2/0	0/0
2007/10/24	「茜色の約束」	6/5	1/0	0/0	0/0	1/0
2008/01/30	「花は桜 君は美し」	13/4	1/1	0/0	0/0	1/0
2008/04/16	「帰りたくなったよ」	7/4	0/0	0/0	0/0	0/0
2008/07/09	「ブルーバード」	0/1	0/2	0/0	0/1	0/1
2008/10/15	「プラネタリウム」	6/5	1/0	0/1	0/1	0/0
2008/12/03	「気まぐれロマンティック」	0/4	0/0	1/4	0/2	0/0
2009/05/27	「ふたり」	13/3	1/1	1/0	0/0	1/0
2009/07/15	「ホタルノヒカリ」	1/7	0/1	0/1	0/0	0/0
2009/09/23	「YELL／じょいふる」	2/7	2/0	4/1	1/0	1/0
2009/11/11	「なくもんか」	10/6	1/0	0/0	1/0	2/0
2010/03/10	「ノスタルジア」	6/4	0/0	1/0	0/0	0/1
2010/05/05	「ありがとう」	0/14	0/3	0/1	0/1	0/0
2010/08/04	「キミがいる」	3/15	0/1	0/0	0/0	0/1
2011/07/20	「笑ってたいんだ／NEW WORLD MUSIC」	10/3	1/0	1/0	0/0	2/0
2011/11/23	「歩いていこう」	2/8	0/0	0/2	0/1	0/0
2012/01/18	「いつだって僕らは」	5/10	0/0	0/0	1/0	0/1
2012/04/25	「ハルウタ」	3/12	0/0	0/1	0/3	0/0
2012/07/18	「風が吹いている」	1/15	0/2	0/0	0/1	0/0
合　計		139/130	11/11	14/11	7/10	8/4

表１　「いきものがかり」シングル曲に見られるガ行音の鼻音性

以上のデータから，ガ行鼻濁音の使用に関して，「いきものがかり」の歌唱は３期に分けることができる[7]。まず，第１期は，2007年８月の「夏色グラフィティ」までの期間である。この期間は，ガ行鼻濁音がほとんど使用されない。続く第２期は，「ノスタルジア」までの期間である。この期間は，ガ行が鼻濁音で発音されたり非鼻濁音で発音されたりして安定しない期間である。これが，第３期の「ありがとう」以降では，安定してガ行鼻濁音が使用される（ただし，完全に非鼻濁音が使用されないというわけではない）。

7 「いきものがかり」の歌唱における鼻濁音の変化については，2012年度前期，岐阜大学全学共通教育にておこなった「言語学入門」で学生から指摘されたことを考察のひとつの端緒としている。その学生は，メジャーデビュー曲「SAKURA」における鼻濁音の不使用を指摘した（実際には１か所，鼻濁音と捉えられる箇所が見られる）。

発表年月日	タイトル	ガ／ガ°	ギ／ギ°	グ／グ°	ゲ／ゲ°	ゴ／ゴ°
第１期	「SAKURA」～「夏色グラフィティ」	52/3	3/0	6/0	4/0	0/0
第２期	「茜色の約束」～「ノスタルジア」	63/50	7/5	7/7	2/4	6/2
第３期	「ありがとう」～「風が吹いている」	24/77	1/6	1/4	1/6	2/2

表２　「いきものがかり」シングル曲に見られるガ行音の鼻音性の時期別変化

注目されるのは，第２期である。ガ行鼻濁音と非鼻濁音が併用されている時期，どのような語で鼻濁音が使われどのような語では非鼻濁音になりやすいかを考えることは有益なことである。特に，鼻濁音性についてゆれの見られる楽曲を取り上げて，個別の語を具体的に挙げてみる。

「茜色の約束」
　[g]：カゼガ，アナタガ，コワガル，スギテ，ヤガテ，ワカレガ，サイゴノ，ネガウヨ
　[ŋ]：ネガ°ウヨ，エガ°オモ(2)，アシアトガ°，ツナガ°ッテル
「花は桜 君は美し」
　[g]：フユガ(2)，ハルガ(2)，コエガ，ケシキガ，ウゴク，ココロガ，イソガセマス，ヒカリガ，カゼガ，カサガ，トキガ，ユキガ，サワギ
　[ŋ]：フユガ°，ユキガ°(2)，ハルガ°，ニギ°リタイ
「帰りたくなったよ」
　[g]：ジブンガ，キイガ（マツ）(3)，ボクガ（ミル)，ハナシガ（アル)，カケガエノ，
　[ŋ]：ワカレガ°，キミガ°（マツ)，ハナシガ°（アル）(2)
「プラネタリウム」
　[g]：カガヤキ，キミガ（クレタ)，カナシミガ，ユルギナイ，コトガ（デキタラ）(3)
　[ŋ]：ネガ°イ(3)，アリガ°トー，エガ°イテ，ハグ°レタ，ケナゲ°ナ
「ふたり」
　[g]：ボクガ(3)，エガオニ，トキガ（アル)，サガスヨ(2)，ツナガッテ(3)，オモイガ，ヤサシスギルンダ，ハグレソーナ，コゴエル，ツナガッテ，ネガイワ
　[ŋ]：オモイガ°(3)，ニギ°リカエス
「YELL」[8]
　[g]：ツギノ(2)，クラガリニ，マッスグナ，ツゲル，ツナグ(2)，メグリアウ，コトバガ，スゴシタ
　[ŋ]：エガ°イタ，ナルノガ°，ツナグ°，サガ°ス，エガ°オモ，ノガ°レテ，チガ°ウ，ボクラガ°
「なくもんか」
　[g]：ボクガ(2)，ダレカガ，ユーキガ，ツナガレタラ，キミガ(2)，エガオノ，ナミダガ，キガ（スル)，デキゴトモ(2)，ウラギリモ，ニゲタクワ（ナイ）
　[ŋ]：セナカガ°，キョリガ°，エガ°オガ°，ツヨガ°ルヨ，アメガ°，
「ノスタルジア」
　[g]：ツヨガル，ホハバガ，ナミダガ，ヤガテ(2)，アスガ，ハグレテ
　[ŋ]：アスガ°，イトガ°，スガ°タワ(2)，ウコ°イテ

8 コーラス部分を除く。

この中から，鼻濁音・非鼻濁音の傾向を見つけるのは容易ではない。カ行の清音が前の音節にあると非鼻濁音になる傾向があるとも見える（ダレカガ，コゴエル，ユキガ等）が，反例も見つかる（セナカカ゜）。音階との関連も検討してみたが，十分な傾向性を見いだすには至らなかった。

第３期については，アップテンポの「笑ってたいんだ」を除けば，圧倒的に鼻濁音が多くなる。特に，バラード曲「ありがとう」と「風が吹いている」は，ほぼ完璧に鼻濁音で歌い上げられている。この２曲がNHKということばに相対的に厳しく教育がおこなわれてきた放送局とのタイアップ曲であることが，ひとつの理由と考えられる。

実際，現代の30代以下の歌手で，上に挙げたような比率でガ行鼻濁音を用いている歌い手は稀である。「風が吹いている」と同時期に発売された曲から歌詞のガ行音を見てみると，男性デュオグループ　コブクロ（２人とも1977年生まれ，大阪および宮崎出身）がわずかに，11語中で２語で鼻濁音を使用しているが，そのほかに鼻濁音を用いて歌唱している歌い手は見あたらなかった。もちろん，これは，J-Popというジャンルに限定したサンプルにおいてであって，演歌歌手等ガ行鼻濁音を用いる歌い手は現代でも散見されるが，J-Popではガ行鼻濁音を用いる若手の歌い手が限定されていることがわかる（福山雅治だけは，1969年生まれの40代）。

「サラバ，愛しき悲しみたちよ」ももいろクローバーＺ：オネゲ（お願い）
「Shine」家入レオ：ココロガ，サガシ，ナニカガ，カガヤキナガラ(2)，コロガリ，ケガレノ
「つけまつける」きゃりーぱみゅぱみゅ：エガオニ
「ヒカリへ」miwa：エガク(2)，アタシガ(2)，アゲル(2)，カガヤキ(2)，サイゴ，キゴーカ，コガス，コドクガ
「また明日」ゆず：ユーグレノ，スギユク，ニギリシメル，ボクラガ
「紙飛行機」コブクロ：カゼガ(3)，コワガラズニ(3)，ワライナガラ，オテアゲナ，ナグ゜サメル，エカ゜オト，カサネスギタ
「カゲボウシ」ポルノグラフィティ：コガレ，ツヨガッタ，キミガ(2)，モノガタル，アヤウゲデ，アゲテ，カゲボオシ(2)，アリガトオ[9](2)，ソレコソガ，マチガッテ，ボクガ，スグ
「Beautiful life」福山雅治：ダレカガ，キガ（スル）(2)，エガオ，スガオ，アナタガ(2)，ウラギラレテモ，スガタ(ト)(2)，チガイ，ツナガレルノナラ

「歌唱はガ行鼻濁音でおこなわれるよう指導されるもの」との常識は，少なくともJ-Popというジャンルでは通用しない。しかし，この中で「いきものがかり」は，鼻濁音を用いる「伝統的な歌唱法を継承する歌い手」なのである。

もうひとつ考えておきたいのは，CDという完成された歌唱とライブというその場で消え去ることが前提の歌唱，およびトーク時の音声との差である。ソシュールのラングとパロールの差になぞらえうるこの差は，当然，音声的特徴に反映されている。

まず，ライブでの歌唱については，2012年12月30日放送の「第54回　輝く！日本レコード大賞」での歌唱における全ガ行音については，冒頭の「カゼガ」のみが非鼻濁音で，他は，やや鼻濁音性の弱いものもあったが，歌われたフレーズの中に見られた「ダレカカ゜」「ツナキ゜アエタナラ」「ナミダカ゜」「サヨナラトカ゜」「アノヒカ゜」「コトバカ゜」「カゼカ゜」「ツナキ゜タイ」は，すべて鼻濁音で歌唱された。また，同年12月31日の「第63回　NHK紅白歌合戦」においては，すべて鼻濁音が使用された[10]。

しかし，このような鼻濁音は，もちろん話者個人の音声的特徴ではなく歌唱法における音声である。

9 長音ではなく，母音「オ」として発音しているため，このように表記した。
10 「輝く！日本レコード大賞」および「紅白歌合戦」は，いずれもフルコーラスでの歌唱ではなく，短縮されたバージョンが歌唱された。

メインボーカルの吉岡は，ふだんの話しことばにおいて鼻濁音は基本使用しない。2012年12月29日放送（FM愛知）の彼らのラジオ番組「いきものがかりのgarden★party」では，自らのグループ名である「いきものがかり」をはじめ「色違い」「小道具」「すぎのこ」「きまぐれロマンティック」「〜ぐらい」など，ほとんどを非鼻濁音で発音していた。吉岡の発話で唯一鼻濁音であったのは「スケート靴」であった。国立国語研究所編（1966）第１図で神奈川県は全域で鼻濁音が用いられる地域とされるが，当然，若い世代では不使用が優勢であり予想された結果である。

これらの事実から，音声には次のような階層性があることが確認される。

日常の無意識発話　＞　LIVE等の一回性歌唱　＞　収録されるべくして収録された歌唱

右へ行くほど規範意識に支配されやすくガ行鼻濁音のような音はでやすい。この段階でガ行鼻濁音が出ない最近のJ-Pop歌手は，当然，日常の無意識発話においてもガ行鼻濁音は不使用である。一方，伝統的な関東方言話者であれば，日常の無意識発話においてもガ行鼻濁音を使用し，歌唱においても（緊張などがなければ）容易に鼻濁音でガ行音が実現されることが予想される。「いきものがかり」は，この中間の，修得されたガ行鼻濁音を歌唱という特定環境で実現しうる歌い手であると言える。

現代におけるガ行鼻濁音の使用は，朝の連続テレビ小説の主題歌としてアドヴァンテージを有し，幅広い世代への受け入れをもたらす。まさに，これが「いきものがかり」が現在，NHKに受け入れられている理由のひとつであろう。

４．格助詞「を」の唇音性

「現代仮名遣い」では，格助詞の「を」は，本則として[o]と発音される。歌唱において[ɯo][11]と発音するよう指導されるが，これは少なくとも歌唱に限定された発音でしかない。この歌唱における規範として指導される[ɯo]は，「いきものがかり」の歌で多く見られる。

発表年月日	タイトル	[o]／[ɯo]
2006/03/15	「SAKURA」	0/14
2006/05/31	「HANABI」	0/3
2006/10/18	「コイスルオトメ」	0/5
2006/12/06	「流星ミラクル」	2/15
2007/02/14	「うるわしきひと／青春のとびら」	1/5
2007/08/08	「夏空グラフィティ／青春ライン」	0/12
2007/10/24	「茜色の約束」	0/11
2008/01/30	「花は桜 君は美し」	0/7
2008/04/16	「帰りたくなったよ」	1/5
2008/07/09	「ブルーバード」	0/4
2008/10/15	「プラネタリウム」	7/7
2008/12/03	「気まぐれロマンティック」	0/10
2009/05/27	「ふたり」	1/5
2009/07/15	「ホタルノヒカリ」	0/5

11 [ɯ]は，円唇の渡り音[w]に対する非円唇の半母音である。実際には，多少の円唇性が見られる場合もあるが，ここではまとめて非円唇の[ɯ]を用いて表す。

2009/09/23	「YELL／じょいふる」	0/18
2009/11/11	「なくもんか」	2/7
2010/03/10	「ノスタルジア」	0/9
2010/05/05	「ありがとう」	2/15
2010/08/04	「キミがいる」	0/4
2011/07/20	「笑ってたいんだ／NEW WORLD MUSIC」	6/11
2011/11/23	「歩いていこう」	3/10
2012/01/18	「いつだって僕らは」	9/8
2012/04/25	「ハルウタ」	7/4
2012/07/18	「風が吹いている」	1/23

表３　「いきものがかり」シングル曲に見られる「を」の唇音性

「いきものがかり」の歌では，初期から「を」は[ɯɸo]と安定して発音されてきた。九州の一部で「を」が[ɯɸo]と発音されることは知られているが，「いきものがかり」の歌唱における「を」は，出身地から考えても，やはり歌唱としての特徴と考えてよいであろう。

歌唱指導においては，やはり「を」を[ɯɸo]と発音するよう指導される。半母音である[ɯ]を介する方が個別の音節がはっきりすることは，母音接続 (hiatus) 回避の傾向が古来ある日本語では，特に重要である。しかし，他にも多くの母音接続は存在する。格助詞の「へ」を[e]ではなく[he]や[we]と読まないことからも，「を」を[ɯɸo]と読まなければならない必然性は実際には低い。やはり，「を」を[ɯɸo]と発音することが伝統的と価値づけられている意識から，このような選好が生じると考えるほかない。

ただし，「いきものがかり」の歌を年に沿って見ると，次第に半母音なしの[o]で発音されている箇所が増えていることも看過できない。サンプル数が少ないため年ごとの誤差は大きいと危惧されるが，上に挙げたすべての「を」の中で[o]と発音された割合を示してみると次のようになる。

	[o]（数／割合）		[ɯɸo]（数／割合）	
2006	2	5.1%	37	94.9%
2007	1	3.4%	28	96.6%
2008	8	19.5%	33	80.5%
2009	3	7.9%	35	92.1%
2010	2	6.9%	27	93.1%
2011	9	30.0%	21	70.0%
2012	17	32.7%	35	67.3%

表４　「いきものがかり」シングル曲に見られる唇音性の時期別変化

おおまかな傾向として，2011年以降，[o]が比較的多く使われてきていることが見て取れる。より伝統的と見なされる発音が[ɯɸo]であるとすると，この変化はガ行鼻濁音のものと逆の傾向を呈する。ただ，それでも，[ɯɸo]のほうが優勢である。

近年では，特に，アップテンポの曲である「いつだって僕らは」および「ハルウタ」は，[o]の数が[ɯɸo]を上回っている。アップテンポであることにより，異音として意味の差を生じないこの場合に，子音が省略されやすくなった可能性はある。しかし，同じくアップテンポな「流星ミラクル」「気ま

ぐれロマンティック」等であっても，[ɯɸo]と発音されることが多いことから，やはり近年の変化は歌唱の変化と考える方が理にかなっている。その理由は，言語学的観察からだけでは定かではない。今後の課題としたい。

５．「行く」の発音

最後に，本動詞「行く」および補助動詞「〜ていく」およびその活用形について見ていく。

これらの動詞・本動詞は，「い」が「ユ」で発音されても，意味の差を生じない[12]。なお，連用形に「ゆく」が組み合わされて複合動詞を作るが，この場合，「イク」の発音は用いられない（e.g.「繋ぎゆく／*繋ぎいく」，「燃えゆく／*燃えいく」[13]）。

なお，ここでは，はじめから補助動詞の「〜ていく」が「〜テク」と縮約されているものを省いてある。

発表年月日	タイトル	表記「いく」	表記「ゆく」
		イク/ユク/(テ)ク	イク/ユク/(テ)ク
2006/03/15	「SAKURA」	0/3/0	0/0/0
2006/05/31	「HANABI」	0/0/0	0/0/0
2006/10/18	「コイスルオトメ」	0/0/0	0/0/0
2006/12/06	「流星ミラクル」	1/3/0	0/0/0
2007/02/14	「うるわしきひと／青春のとびら」	0/0/0	0/0/0
2007/08/08	「夏空グラフィティ／青春ライン」	0/0/0	0/0/0
2007/10/24	「茜色の約束」	2/1/2	0/0/0
2008/01/30	「花は桜 君は美し」	0/0/0	0/0/0
2008/04/16	「帰りたくなったよ」	0/1/0	0/0/0
2008/07/09	「ブルーバード」	1/1/2	0/0/0
2008/10/15	「プラネタリウム」	0/2/0	0/0/0
2008/12/03	「気まぐれロマンティック」	0/2/0	0/0/0
2009/05/27	「ふたり」	0/0/0	0/0/0
2009/07/15	「ホタルノヒカリ」	1/4/0	0/0/0
2009/09/23	「YELL／じょいふる」	0/2/0	0/0/0
2009/11/11	「なくもんか」	1/4/0	0/0/0
2010/03/10	「ノスタルジア」	0/2/0	0/0/0
2010/05/05	「ありがとう」	3/1/1	0/0/0
2010/08/04	「キミがいる」	0/0/0	0/0/0
2011/07/20	「笑ってたいんだ／NEW WORLD MUSIC」	0/4/0	0/0/0
2011/11/23	「歩いていこう」	0/5/0	0/0/0
2012/01/18	「いつだって僕らは」	0/0/0	0/4/0
2012/04/25	「ハルウタ」	0/0/0	0/0/0
2012/07/18	「風が吹いている」	0/7/0	0/0/0
合　計		6/42/5	0/4/0

表５　「いきものがかり」シングル曲に見られる「いく」「ゆく」の発音

12 同様な動詞には「言う」がある（[iɯ]および[jɯː]）が，今回は，サンプルがさほど見つからなかったため，分析の対象としない。

13 「*」は非文法的な形式であることを表す。

表から見て一目瞭然であるように，「いきものがかり」の歌では，「いく」と書いて「ユク」と歌唱される割合は79.2%に上る。

実は，シングルタイトル曲24曲のうち，21曲までは水野の作詞であり，「いつだって僕らは」と「ハルウタ」が山下の作詞である。山下の歌詞には擬古文調のものも多く，歌詞にいくつかの特徴が見られるが，そのひとつがこの「ゆく」の使用である。同様の「ゆく」が用いられている山下作詞の楽曲は，「いきものがかり」のシングル曲以外の楽曲として，「ハジマリノウタ～遠い空澄んで～」「てのひらの音」「明日へ向かう帰り道」「甘い苦い時間」「雪やまぬ夜二人」「風と未来」「恋詩」「愛言葉」と多い。一方，吉岡は，「未来惑星」で「ゆく」を用いており，また，山下と吉岡のクレジットがある「月とあたしと冷蔵庫」でも「ゆく」が用いられている。

では，なぜ「いきものがかり」の楽曲において，「いく」と書かれているにもかかわらず「ユク」と歌われる率が高いのか。それは，やはり「ユク」の発音がより伝統的であるとの意識があるからであろう。「行く」は，古事記にも「由久」とあり，古来，半母音が付加された形が優勢であったようである。『精選日本国語大辞典』(電子辞書版)には，「室町期を過ぎるまで『ゆく』が優勢であ」り，「慣用句は，より古い時代に出来たこともあって，古雅な『ゆく』の形をとることが多い」とある。その伝統的であり雅な音であるとの意識が「いきものがかり」に「ユク」の発音をさせていると考えられる。

６．おわりに

本考察で，「いきものがかり」の歌に見られる音声的特徴を，ガ行鼻濁音，格助詞「を」の発音，本動詞「行く」および補助動詞「～ていく」の発音を見てきた。結果，ガ行鼻濁音については，使用の多寡に通時的変化が見られ，最新の楽曲においては多く鼻濁音を使用し歌われること，「を」については，初期から変化なく唇音性が確認されること，「行く」は８割りの確率で「ユク」と発音されることがわかった。これらの特徴は，伝統的・保守的な歌唱法を取り入れたものとして，最近のJ-Popと呼ばれるジャンルの歌の中では，ある種，特殊であり，そのことが保守的な層にも受け入れられる要因となっていると考えられると主張した。

本考察で述べてこなかった特徴もある。まず，母音「ウ」の円唇性であるが，この使用は非常に限定されている。「風が吹いている」の「フ」の発音は，相対的に高く，長く発音されることから，円唇化傾向が確認されるが，他の箇所の母音「ウ」は概して非円唇で発音される。同じく後舌の「オ」も，（楽曲「ありがとう」の「思い合う」など一部に円唇化した発音が聞かれるが）目立った円唇化は少ない。このことは，音楽の時間に指導される歌唱法とは異なる。

もうひとつ伝統的歌唱法と異なる点として，長く延ばされる音のビブラートが少ないとの指摘もある（朝田健p.c.)。これらの点で，やはり「いきものがかり」の歌はJ-Popなのであり，他のJ-Popの歌い手との差異は相対的なものでしかない。ただ，非鼻濁音から鼻濁音へといった変化が示すように，彼らの歌は常に「向上」を指向するものである。前向きな歌詞の内容が多いこととともつながるこの特徴が，一時的な特定の年齢層による人気に限定されず広く受け入れられていく特徴であることは，十分な根拠あるものとして主張できよう。

次稿では，このような歌詞の内容の特徴に踏み込んで考察していくこととする。

【参考文献】

伊藤雅光（1996-1997)「表記から見た松任谷由実の歌詞」(1)～(4)『日本語学』1996.12～1997.3，明治書院
伊藤雅光（1997-2001)「ユーミンの言語学」『日本語学』1997.4～2001.7，明治書院
国立国語研究所編（1966)『日本言語地図』１，国立国語研究所
棚田輝嘉・山内博之（2011)「フォークソングの形態素解析　－関西フォークと一般フォークの比較」『実踐國文

學』80
棚田輝嘉・山内博之 (2012)「ニューミュージックの歌詞の分析〜フォークソング的特徴の喪失」『実踐國文學』81
野田春美 (1996)「歌詞における文法的逸脱」『園田語文』10
平山千晴 (2009)「ゆずの歌詞分析」『帝京日本文化論集』16